

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス ほくらのティダ.		令和8年 2月13日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	○		スペースの区分が活かされている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		スペースの区分分けとその場で使用するものなど環境設定は出来ている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		環境設定が出来るようになってきた。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		なっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月1回の全体ミーティングで共通理解事項を把握するよう努め、日々の支援に関して都度都度振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の方の意見は、貴重なものとしてとらえ、よりよい支援に繋がるように参考にさせて頂いている。	保護者会などの定期開催を行いたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝のミーティングや会話の中で出てきた案などは「やってみよう」と取り組むことを大切にしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部評価として特にしていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			勉強会の頻度を上げたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上に掲載済み	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		その日の利用児の対応に合わせ注目すべき領域をきめて支援している。	アセスメントを定期的に行うようにする。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		会議を行い、多くの目で見たとその子の育ちを共有し、子どもの最善の利益になるよう努めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		当日利用児の支援内容を確認している。	作成した計画書は、共有しているが、支援内容がズレないように確認することが必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域をはじめとし必要な項目を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		基本的に担当を決めているが共有している。計画書を事前に提出し共有。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用児の年齢層や季節なども考慮し活動内容を組み立てている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		支援の流れが個別・小集団の活動が定着している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日欠かさず行い、支援に繋げている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		その日の打ち合わせは行わず、翌朝のミーティングで振り返りと気付きの共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は、しっかりととのしている。評価やモニタリング活かしている。記録表も改善している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを行い、状況の変化をみているが、支援計画が遅くならないように要注意である。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		年間を通して基本活動が含まれるようにしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		学習支援の中の個別課題を選択するにあたり自己選択する場面を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現場をよくわかっている児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		日程調整をして会議やモニタリングには参加するようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者様の協力のもと連絡調整が行えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		対象者がまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		市やセンター主催の会や研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		日程調整をして参加するようにしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にはなるべく保護者様と会話して状況把握に努めたり共通理解を図るようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		2か月1回または3か月に1回は保護者会など開催したいと思っているが、まだ単発のみであり定期的にできていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に必要な事項をお伝えしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや送迎時に保護者様と子どもたちとは支援中に話を聞くようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時必要な時には行っている。保護者様が安心できるような助言を心掛けている。	個人面談を積極的に行う。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		まだ不十分である。年間計画に入れ実現していくことが目標である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		万が一苦情が上がった場合は、事実確認をなるべく早く行い、対応することを心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信も発行するが担当を決めて支援者全員であたりたい。必要な情報はSNSや書面で発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報のファイルなどは扉付き（鍵つき）の棚に管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		表現に留意しながら、情報伝達の手段も全体・個人と必要時は段階を踏むようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		毎年、自治公民館で夏休みのアート展を開催している。今後も企画し地域の方との交流も図る。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		マニュアルは作成しているが保護者様への周知が不十分だと思う。年間計画への訓練の位置づけを再確認し共通理解を図る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		非常勤スタッフを含め訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		家庭環境調査票やアレルギー調査などで把握はしているが、再度確認を行う。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現状指示書に基づく対応対象者がいないが、アレルギー調査は行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の見直しは必要であるが、危険箇所になりそうなところへの安全対策は行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット案件が出た場合は共有し、次同じ事が起きないように意識づけをしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		スタッフ全員で研修を受けた。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		命に関わると判断したときのみ（例として外に飛び出す、道路に飛び出す）などの共通理解でいる。	計画に記載していないので見直しのタイミングで説明後記載することとする。